

ヤマトグループ賛助会員向けニュース(季刊) 発行部数12万部・非売品

ヤマト福祉財団NEWS

Yamato Welfare Foundation 2008 Summer

7月20日発行

No19

私たちの賛助会費が活かされています

目標に向かって確実に進む——助成先を訪問しました



鹿児島大学水産学部で学ぶ、奨学生の大岸林太郎さん。桜島を望む鹿児島湾に停泊中の練習船南星丸で

～パワーアップセミナー講師の取り組み～

仕事づくりはこんなアイデアから

～障がい者の働く場づくり応援プロジェクト～

見てください。私たちの働く場
——描いた夢の実現へ

広がる職域

この街で一緒に生きていく
障がい者のクロネコメール便
配達

YWF TOPICS

私たち がんばっています

「地域の方々のお役に立ちたい」と
ゴミ拾いをしながらメール便を配達

私たちの賛助会費が活かされています

目標に向かって確実に進む 助成先を訪問しました

障がい者福祉助成金

奨学生レポート

Vol. 2

夢を持っているひとを応援したい！

私たちは奨学生の方々が

社会で活躍する日を心待ちにしています。

障がい者奨学金制度

当財団では、障がいがありながら、夢に向かって努力している大学生（4年制）を対象に、月額5万円の奨学金を支給しています（返済不要）。現在の制度の利用は34名です。

養殖に関わる仕事がしたい。
あきらめないから今の自分がある

東岸林太郎さん

鹿児島大学水産学部3年



水産学部のモットーを刻印した碑の前で



鹿児島湾の漁業実習から戻った、練習船南星丸の前で

感性性難聴。生まれつき難聴で子音の聞き分けがしづらく、音の判別が難しいという。琵琶湖の魚たちに魅せられて、水産学科を目指す。来年は魚病に関する研究室に入って、生物学的な研究をするのが目標。

魚のことを学びたい——。コンピュータの画面に浮かぶ東岸さんの言葉。

生まれつき難聴の東岸さんは、現在、水産学部で資源育成コースに籍を置く3年生。一人暮らしをしています。この取材では、コンピュータの画面を通してインタビューに答えてくれました。

東岸さんの実家は滋賀県の北部。いつも琵琶湖はお気に入り遊び場でした。

「琵琶湖は本当にきれいです。小さいときから魚を捕りによく潜りにいっていました」

金魚、鯉などを飼育し、産卵させて増やすのが楽しみだったという彼に、大学で魚の養殖技術を学びたいという気持ちが強くなるのはごく自然なことでした。耳が聞こえないというハンデ



水産の職に就きたい、遠洋実習に行きたい…東岸さんの夢は明確

キャンプを持った状態で一般入試を受けることは、非常に困難があったと振り返る東岸さん。それでも挫けずに勉強を続け、二浪したものの、念願の水産学部合格しました。

中学校までは地元の聾話学校に通っていましたが、「一般（健聴者の友達）が欲しかったし、広い世界に行きたかった」という理由で一般高校に進学。「同じ釜の飯を食べた」柔道部の仲間たちと屈託のない高校生活を過ご



亀岡市（京都府）にある南丹広域振興局が林さんの職場

「友だちはめっちゃいい奴らばかり。林さんには与えられませんでした。来（き）るの時点（しんてん）では将来（きらい）の職（しやく）もとくに公務員（こうむいん）を意識（いしぎ）してはいなかったそうです。しかし、大学（だいがく）が林（はやし）さんに与えられたものは少なくありませんでした。」

京都府の職員として現在、府民から土地や家屋の所有権移転時の税務相談に乗ったり、課税の調査に忙しい日々を送っている林さんも、かつて大学生時代に奨学金助成を利用した一人です。

全身の骨がもろく、転倒や衝撃に弱いハンデキャップのある林さんが進学した学科は社会福祉学科ですが「たいそうな理由があったわけではないんです。ただ、自分に関することは知っ

ておくべきだと思つた」と語る林さん。その時点では将来の職もとくに公務員を意識してはいなかったそうです。しかし、大学が林さんに与えられたものは少なくありませんでした。「友だちはめっちゃいい奴らばかり。林さんには与えられませんでした。来（き）るの時点（しんてん）では将来（きらい）の職（しやく）もとくに公務員（こうむいん）を意識（いしぎ）してはいなかったそうです。しかし、大学（だいがく）が林（はやし）さんに与えられたものは少なくありませんでした。」



不動産取得税の課税や調査などが現在の主な仕事

障がいのある人も気軽に街へ。 そんな未来づくりを行政に 林成道さん

京都府南丹広域振興局 企画総務部税務室不動産取得税担当主事



し、県大会3位の実績も。好きな柔道は今も大学の部活として続けています。障がいがあることで後ろ向きになったことは「ない」ときっぱりと記した東岸さんのモットーは、捨てる神あれば拾う神あり。

「世の中はいろんな人がいま

先天性骨形成不全症による身体障害2級。大学を卒業し、現在は京都府庁に勤務しながら大学院に通う。筋肉を鍛えるために、泳では、2003年のジャパンパラリンピック水泳競技大会で、男子・背泳ぎ100m・S6クラスで金メダルを獲得。

それで一番変わったのは、どこにでも自分で行くというスタンスを築けたこと。やっぱり、それまでは出るのが嫌い。ジロジロ見られるのも嫌でしたし。でも友だちは『何言ってんねん』と。それで一緒に映画でもどこでも行きました。温泉旅行にもよく行きましたね」

この春から林さんは同志社大学大学院に社会人入学しました。公共政策コースに在籍する彼の研究テーマは「障がい者が社会に出ていける環境づくり」。将来は障がい者の立場から暮らしやすい社会の実現に貢献できる政策を提案してみたいとのこと！

「世の中はいろんな人がいますので、くよくよしなくても良い、かな」と。大学の授業もいよいよ専門的になり、来夏には遠洋調査実習のカリキュラムが控えています。「聴覚障がい者に乗船実習は危険という議論もありました。でも鹿児島湾内なら大丈夫だと

いうことで、これまで湾内の実習には乗船させてもらっています。来夏のためにも、私は聞かないけど大丈夫だと徐々にアピールしていきたいですね」鹿児島島の海は東岸さんの大切な夢を、時に厳しく時に優しく見守っているようです。

私たちの賛助会費が活かされています

障がい者福祉助成金

助成先レポート

Vol. 1

「いいものを作って売る」ことを基本に

障がい者の経済的自立のための事業として、野菜や草花などの栽培・販売に加え、ミミズの養殖事業を展開する大瀬作業所(宮崎県延岡市)を訪ねました。



NPO法人のべおか城界会
延岡地域活動支援センター
大瀬作業所

平成2年に開設。平成18年からはNPO法人として自立支援事業を展開している。利用者は10～20名で精神障がい者が中心。畑やビニールハウスを使って、野菜や草花などの栽培および販売を主たる事業としている。平成16年よりミミズの養殖に取り組み、昨年より出荷を開始。

昨年9月、財団より35万円の助成を受けた大瀬作業所が自己資金とあわせて賄ったのは、ビニールハウス2棟の張り替え工事です。

このビニールハウスで利用者が汗水たらして育てているのは野菜ではありません。それはミミズ。大瀬作業所では釣り餌用の養殖ミミズを、収入の一つに据えているのです。

元気なミミズを育てるには、エサと水分やりの手間暇はもちろんのこと、ミミズにとって快適な環境づくりが欠かせません。宮崎県の北部に位置する延岡市は毎年の台風被害も少なくありません。ビニールハウスは当初の設置から6年を経て、ビニールも耐用年数を越え、破れかけていました。

農作物の生産販売を主たる事業にしている作業所が、もう一つの事業としてミミズの養殖に



ミミズが土の下に潜る習性を活かして、手作業の収穫

乗り出したのは平成16年。昨年より出荷を始めました。質のいいミミズを育てるのは簡単ではありません。出荷日は全員総出の手作業で一日がかり。そのうえ手早く行わないと弱ったり、死んでしまいます。実際、出荷にこぎ着けた今も、ノウハウを求めて手探り状態が続くと、施設長の牧野康洋さんは言います。

しかし、ミミズの養殖も含め、農作業以外を扱わないのには理由があります。それは、心を病んだ方にとって、生き物と関わるこの意味は大きく、治療的効果も期待できるからです。

「それに今は福祉だけやってちゃダメなんです。その業種のプロに徹するために、農業の勉強もしました。周囲には先生になってくれる農家も多く、地域社会との交流効果もあります。やはり地域に合った活動や



ミミズの排泄物(ふみん土/写真左)は植物の肥料として販売。出荷前の元気なミミズ(写真右)



野菜直売店では、月40万円の売上げ

事業というものが一番です」

一般のお客様に売るというスタンス、かつて1日の売上げが2000円程度だった野菜の売り上げも、今では2万円を超えています。「いいものをつくって売るのが基本」という大瀬作業所にとって、ビニールハウスの改修が、大きな貢献となることを期待して止みません。



仕事づくりはこんな アイデアから

「パワーアップセミナー」講師の取り組み

今年も7月から10月にかけて「障がい者の働く場
パワーアップセミナー」が開催されます。
セミナーの中で、仕事開発の実践をお話いただき
講師のみなさんが、今一番力を入れている仕事を
取材しました。



ひびき福祉会の授産製品販売店パ
レットひびきの前で、亀井さん



片麻痺がある松塚剛さんも機械化で効
率がアップ

僕らが作った餃子 食べて下さい！

亀井 勝さん
社会福祉法人ひびき福祉会 理事長

「業者さんは、手がないから
手抜きになる。僕らには手がた
くさんある。だから、みんな
やれば手抜きにはなりません」
これまでも、「洋菓子のプリ
ス」を軌道にのせ、ケーキとい
う高品質な商品を障がい者でも
提供できることを実証してみせ
た亀井さん。洋菓子から一転、
つぎは餃子に取り組んでいます。
「たくさんの手があるから野
菜もしっかり洗うことができ

る。そして機械でもう一度洗う。
餡を作るのも丁寧になる。肉も
野菜もにんにくも国産のものを
使用して、おいしい餃子を安心
して食べていただきたいと思っ
ています」。皮を機械にセット
してボタンを押すと、きれいに
包まれた餃子が行列を作って出
てきます。トレイに入れて袋を
シール。急速凍結庫で30分もす
ると冷凍餃子の出来上がりです。
パッケージに書かれた商品名
は、「バカ美味ぎょうざ」。ケタ
はずれの美味さを味わってほし
いというみんなの気持ちが伝わ
ります。そして、分業しやすい
工程も亀井さんの計算どおり。
「施設がお金をたくさんもらっ
たときの喜びを体験させていな
いと思うんです。将来、メンバ
ーさんが最低10人、職員が3人
時給400円で1日6時間。22
日働いて5万円になるようにし
たいですね」。今秋、本格的に
販売が始まる予定です。



試作段階から餃子づくりに携わった里見芳男
さん（左）と松塚さん。「おいしいと言われ
るとうれしいです」



今、評判の「健康せんべい」を製造中

「自立支援法に移行して、麦の郷も定員が2倍になったんです。今までと同じように給料を払おうと思ったら、2倍稼がなくてははいけません。これには私たち『麦の郷』も強い危機感を覚えました」。かつて大手スーパー勤務の経験を生かし、麦の郷で仕事づくりを担当している柏木さんは、農産直売所や地元の比較的規模の小さいスーパーに、取引先の活路を求めました。「商談を受け付けてくれる余地が十分にある」——柏木さんは職員とともに営業の攻勢をかけました。

柏木さん



100を超える麦の郷の製品。製造スタッフと柏木さん(右から2番目)

柏木克之さん

社会福祉法人一麦会「麦の郷」 労働支援部長

けられ、何度も改良した商品を持ち込む、その繰り返しでした。ついに今年に入って、和歌山市内に6店舗を構えるスーパーと、麦の郷の全商品を置いてもらう契約が成立。先行して販売が始まった店舗では1日2万円強の売上が上がっています。麦の郷の商品の多くが食品で、毎日売れる商品であったことがプラスに働くと同時に、品質の改良・営業努力が『麦の郷』の今を支えています。

農産物直売所や 地元スーパーが狙い目

仕事づくりはこんなアイデアから

小島靖子さん

有限会社ヴィ王子取締役・スワンベーカーリー十条店・社会福祉法人ドリームヴィ就労支援センター代表

地域に求められることから 始めましょう！



BOOK リユースのメンバーと小島さん(右から2番目)

スワンベーカーリーのフランチャイズ1号店に名乗りを上げ、その行動力とアイデアで知られる小島靖子さん。
障がい者雇用拡大のつぎの一手として「BOOKリユース」事業をはじめました。これは中古本販売のBOOKOFFと提携して始めたもので、古本・CDの出張買取事業です。
宣伝のチラシづくりからポストティンク、電話依頼の受付、個



本の査定中



この日引き取った本は10箱以上

人宅への出張買い取り、査定まで、障がいの特性に応じ仕事を分担して行います。
「さまざまなアイデアが出てくるそのバイタリティはどこから？」との問いに、「(できないと決めつけられるのは)しゃくに障るから」と笑う小島さん。「地域で必要とされているものをすくい上げて事業に活かす。小倉元理事長もおっしゃっていたけど、需要がないところに供給しても邪魔にされるだけ。だから、地域に求められること、喜んでもらえることをやる。そして私たちにはやりがいと収益が確保できることがモットー」と語ってくれました。

「素人集団の思いつきはなぜ当たらないのでしょうか？それは消費者の嗜好、購入の可能性を見極められない、に尽きます」
 年商4億1200万円。「はらから豆腐」「おからかりんとう」と立て続けに成功した武田さんの次のターゲットは「蔵王牛のレトルトカレー」でした。しかし、思わぬ大赤字。そこで気づいたのです。

豆腐は、素材にこだわり手間暇をかければ、おいしくなっていくシンプルな商品だということ。ところがカレーについての好みは人それぞれ。「月に1千万円売ろうと思うなら、自分の好みで開発するのではダメで、多くの人のためのおいしいと思えるゾーンを狙わなくてはなりません」。その反省から、レトル



売り出し中の新商品「お豆腐屋さんの湯葉入りトマトカレー」



おから班と一緒に、武田さん（写真右端）

プロと手を組むのも手。 大豆関連商品開発で収益アップ

武田 元さん
 社会福祉法人はらから福祉会 理事長

～パワーアップセミナー講師の取り組み～



カフェレストランほのぼの屋のみなさんと西澤さん（左から2番目）

給料が上がれば、 利用者の働き方も変わる

西澤 心さん
 社会福祉法人まいづる福祉会
 ワークショップほのぼの屋 施設長

米屋「米蔵なごみ本舗」を始めたのは、舞鶴の海を臨む高台にプチホテル「おーべるじゅ・ど・ぼの」を始めたのと同じ06年のこと。「いま米店は年商で1千万円ぐらい。今年度、約倍を目標に売り上げを上げていこうとがんばっています」と言う西澤さんは、昨年の小倉昌男賞受賞者の一人。



売上倍増を目指す「米蔵なごみ本舗」

た方が店を閉める。でも米屋は儲かる商売なんだよ、やってみたいか？」という話を聞き込んできたのが事の始まりです。それから1年がかりで勉強して出した答えは、生産者の顔が見える良質米を、直接仕入れることで通常より低い値段設定で売るビジネスモデル。

それまでの経験から、給料が上がれば利用者の仕事への取り組みや生活の質が確実に変わることを実感していましたが、この米店でも「利用者の給料はいつきに2万円になった。2万を超える」と仕事が変わる。彼らは営業トークが身につきました」と頼もしいに語ります。

これからの時代は障がいのある人がサービスマンに出っていく。これが将来の、バリアを取っ払ってしまう状況をつくるのものすごく大事だというのが、西澤さんの思いです。

描いた夢の

～障がい者の働く場づくり応援プロジェクト～

実現へ

見てください。

私たちの働く場

06年度からスタートした「障がい者の働く場づくり応援プロジェクト」。第一期の作業所が、夢に向かって船出しました。



きれいに盛りつけることが得意。手早さも大事な戦力になっている西川正昭さん（左）と加藤由香さん



手早い動きでメロンパンを成形する竹中さん



接客に、品出しに大忙しの志野隆司さん

さくらんぼ共同作業所の出した結論は、すでに行っていた配食弁当事業をリニューアルして主力事業に据えることでした。作業所のある下之一色町は住宅地ながら、昔は漁業で栄えたところ、高齢化も進んでいます。国産食材にこだわり、あたたかい手作り弁当を『売り』に再スター

に実現していくのか。それぞれ06年の9月より職員はもとより関係するボランティアさんたちも含め全員参加で、財団が派遣した経営コンサルタントと膝詰めで議論を重ねました。目標は工賃5万円の実現。いつまでに、どんな計画で、どのように実現していくのか。

06年度のプロジェクト第1期に選ばれたのは、名古屋市のさくらんぼ共同作業所と、和歌山県湯浅町のつくし共同作業所、そして熊本県八代市の社会就労センターワークショップ八代の3団体です。

■障がい者の働く場づくり応援プロジェクトとは？

地域で暮らせるように障がい者に高い給料を支払いたい——、その強い意志と可能性を秘めた全国の施設・作業所を応援するプロジェクト。

「目指せ！工賃5万円」を合言葉に、1年間にわたって財団が派遣する経営コンサルタントとともに、経営理念の再構築、目標設定、目標実現のためのプランづくりを行い、夢を現実にするお手伝いをします。

■社会福祉法人 さくらんぼの会 さくらんぼ作業所(愛知県名古屋)

1994年に小規模作業所として開所。現在の利用者は35名。パチンコ景品加工販売、メール便配達、リサイクル事業などを展開。今回、配食弁当事業を主力事業に据え、地元企業や高齢者をターゲットに奮闘中。現在、重度利用者も含め全員に3.5万円の工賃を実施。2010年には、月給5万円を目標に据える。



岡崎信用金庫様にお弁当の配達。山村大祐さん(写真中央)は人気者



■社会福祉法人 みどり福祉会

社会就労センターワークショップ八代(熊本県八代市) 趣処 田んなか



2003年に開所された精神障がい通所授産施設。製麺作業、八代特産のい草加工を行っている。紆余曲折を経てプロジェクトを推進。八代にはまだない、製麺所併設うどん店の開店を地元の人も歓迎している。



うどんの味を引き立てる明るい店内



▲自家製麺を釜ゆでする本格派うどん。強いコシが特長

▶「お客さまが残さず食べてくれたときがうれしいです」



「切る・焼く・煮る」調理を分担、
「目標は150食」の声が製造班のみなさんからあがる



焼き上がったパンをオーブンから出していく上垣内良子さん
ガラス越しにお客様からもその様子が見える

■社会福祉法人 有田つくし福祉会 つくし共同作業所(和歌山県有田市) カフェ&ベーカリー オリーブ

既存のパン製造を武器に、店を構える決断をした06年、本プロジェクトに応募。他にさをり(手織物)などの製造も手がかけられるが、チーズケーキなどの新製品開発で収益の向上を目指す。現在、平均工賃は約2.5万円。新店の今後に期待がかかる。



ト。今年2月から本格的な営業を開始しました。一時、人手不足でお客様開拓が足踏みする状況もありましたが、多い日は1日に120食以上を記録。2010年の最終目標5万円に向けて、『働く場』に生まれ変わったさくらんぼ作業所の挑戦は続きます。

去る5月20日に「カフェ&ベーカリー オリーブ」を開店させたのは和歌山のつくし共同作業所です。「作業所では焼きたてパンでも限界がある。お客様をきちんとおもてなしできるカフェ&ベーカリーのお店を持ちたい!」。食事用の大型パンも種類が豊富、つくし作業所自慢のパンに、お客様も「新しいお店になってパンがさらにおいしくなった」と好評です。「設備を移動してできた作業所のスペースで、今度は湯浅名物を使ったせんべいを作りたい」と施設長の鬼松光夫さん。オリーブの出店でつかんだコツが早くも次の事業に活かそうです。

ワークショップ八代も、それまで行っていた製麺事業という強みを生かし7月1日、ついにうどん店「麺処 田んなか」がオープンしました。

調理台に向かい、お客様に相対する利用者の笑顔はこのプロジェクトに共通する最初の成果。工賃5万円に向かって、まだ挑戦は始まったばかりです。



ようやく自分にあつた仕事に出会えました

KANAGAWA

坂巻志保さん
高島屋支店インプットセンター
〈平成18年4月入社〉

広がる職域

私たち

がんばっています

現場の先頭に立ち、障がい者雇用を切り開いてきた社員みなさんにお話を伺いました。

「今は、自分の適性にあう働き方を選択できて満足しています。長く続けられる仕事に出会えたので、『がんばらなきゃ』って思います」と話してくれました。

高島屋物流センターの中にあるヤマト運輸高島屋支店は、高島屋様の物流を一手に担う委託事業所です。坂巻志保さんが働くのはそのインプットセンター。ここでは配送控えや承り伝票などをスキャンしています。人と話すことに苦手意識を持っていた坂巻さん。以前は自分に合う仕事が見つからずにアルバイトを転々としていたそうです。



同僚の和泉亮平さんは、入社7年のベテラン



「簡単そうに見えるけど、結構むずかしいんですよ」高速スキャナーをテキパキと動かす日野さん

養護学校の実習のときから、この仕事がしたかった

MIYAGI

日野 篤さん
宮城主管支店 ベース店
〈平成20年4月入社〉

今年3月に小牛田養護学校を卒業しヤマトに入社した日野篤さん。自宅から宮城主管支店まで電車やバスを乗り継ぎ、約2時間かけて通勤しています。「在学中からここで実習しているの、伝票スキャンの仕事も機械にも慣れてきました。今までバイトをしたこともなかったし、自分でやれるかどうかも心配でしたが、仕事を楽しんでいます。長く働けるようにがんばりたい」と日野さん。





障がいのある社員が働く建物の全体で理解されるよ

障がい者の雇用推進について
お伺いしました

個々の特性を理解し、目に見えない 職場のルールを作ることが大切

ヤマト運輸株式会社
人事総務部長 石崎隆浩氏

障がい者雇用を進めるためには、まず監督官庁をはじめハローワークや養護学校との関係を密にすること——例えば養護学校の先生に、ヤマトはどんな仕事をしているのかを理解してもらい、就職希望者ができる仕事を見いだしていただくことです。逆にヤマトでは、障がいの特性は何か、気を遣う内容を、障がいのある社員が働く建物全体で理解されるようにしています。

彼らと一緒に働く社員が、職場内の調整や家庭との連絡はもちろん、障がいのある人を受け入れる社会的な役目を意識しながら動くことで2.44%の雇用率は、さらに上がっていくと思います。



「仕事が楽しいです」と、笑顔で応える坂巻さん

楽しみにしているのは やっぱり給料日です

TOCHIGI

高野真吾さん
栃木主管支店 ベース店
平成18年3月入社



黙々と仕事に取り組む姿勢は、社員の模範

「重い荷物を扱うのが大変です。最初は職場の人にボックスへの積み方や、荷物の流し方な

ど、いろいろ教わりました。暑い日はつらいですが、給料もよくなったし、楽しいです。給料

在はありがたいですね。障がいのある社員だけでなく、私たちにも様子を聞いてくれますから、さまざまな面で助かっています」と高島屋支店の矢野治支店長。

養護学校や障がい者職業センターをはじめ地域の定期的なサポーターも、雇用推進を支えています。

やスキャナーを行う部署に配属されました。

「彼らに教えるときは、やつて見せるだけでなく、きちんとことばにして伝えようと言っています。そのために我々も仕事をより深く知るようになりました」と、上司の村上誠さん。ゆくゆくは、スキャンだけでなく伝

票印字の仕事や、機械の業者との対応まで、仕事を広げて欲しいと日野さんに期待しています。

「まじめで、礼儀正しく言葉遣いもきちんとしています。日野さんをはじめ先輩がみんなに評価されるので、宮城ベースでは積極的に障がい者雇用を進めま

はお昼代やガソリン代、貯金もしますよ」と、高野真吾さん。

地域の授産施設からヤマトに入社した高野さんは周りにとけ込むのが不得意でした。そんな状況をみて職場では、ミーティングやベース店主催のバーベキュー大会を行い、コミュニケーションを図ったそうです。今では、職場にすっかりとけ込んだ高野さん。

「ベースでの流し作業は大変ですが、高野さんのまじめで仕事に手を抜かない姿勢は、一般社員の模範になります。

今後も障がい者雇用を進めるので、高野さんには後輩の面倒をみたり、その中のリーダーになつてほしいですね」と人事総務課長の中川広章さんは期待を寄せています。

高野さんの入社から、障がい者の採用が毎年行われるようになりました。

この街で、
一緒に生きていく。



(財)ヤマト福祉財団
障がい者のクロネコメール便配達事業

「地域の方々のお役に立ちたい」と ゴミ拾いをしながらメール便を配達

北海道北東部に位置する美幌町。冬は最低気温マイナス20℃という極寒の地域で、今年1月からクロネコメール便配達事業を始めた美幌えくぼ福祉会。メール便を配達しながらゴミ拾いをしたり、配達エリアに挨拶のチラシを配るなど、高い意欲から生まれた独自の創意工夫が、地域での信頼を高めています。



「そんなこともしてくれて
いるの?」
地域の方からの
驚きの声と感謝の言葉

ヤマト運輸の制服に身を包み、徒歩でメール便の配達をする美幌えくぼ福祉会の中田直之さん、原正佳さん、指導員の村上恵美さん。3人の手には、なぜかビニールの袋が。実はメール便配達で地域を歩きながら、ゴミを拾っているのです。

「雪解けの3月頃になって、雪の下に隠れていたゴミが急に目立ち始めたんです。いつもお世話になっている地域の方々のお役に立てればと思って、中田さん、原さんと相談のうえ、配達で地域を歩きながらゴミを拾うことにしました」(村上さん)

最初の頃は3人のビニール袋が満杯になるほどのゴミがありました。地域の方からは「配達中に、そんなこともしてくれているの? ありがとう」という驚きの声や感



●道東主管支店 美幌宅急便センター
面積 439km² / 人口22,822人 / 世帯数8,885
●美幌えくぼ福祉会 (精神・知的・身体)

就労継続支援事業所(利用者30名)
特定非営利活動法人 美幌地域就労支援センター 美幌えくぼ福祉会
2008年1月メール便配達開始。クロネコメイトは2名(精神・知的)。
メール便配達のほか、清掃業務、自主経営する喫茶店での調理・接客など。

「障がい者のクロネコメール便配達事業」
お問い合わせは……(財)ヤマト福祉財団 押尾
TEL 03-3248-0691 FAX 03-3542-5165
e-mail y.zaidan@yamatofukushizaidan.or.jp

メイトさんの情熱を
支える環境づくり

冬の最低気温はマイナス20℃。日中でもマイナス10℃を下回る北海道美幌町。一番手として中田さんがメール便配達への挑戦を始めたのは、寒さの厳しい1月10日の

美幌えくぼ福祉会のユニフォームからヤマト運輸の制服に着替え、写真入りの名札をつけて、メール便配達に出発! 冬は路面が凍結して歩くのが大変。とくに晴れた日の朝は凍りの表面が溶けて滑りやすい。「でも、一番辛い時期からスタートしたので、今は逆に楽になりました」(村上さん) 左から、村上さん、中田さん、原さん。

(写真右下) メール便の取り組みが、北海道の新聞(経済の伝書鳩)でも紹介されました。





ことでした。

でも、中田さんはほとんど苦にならなかったと言います。それよりも「早く仕事を覚えたい」と一生懸命でした。午前中はメール便配達、午後は清掃作業をしています。

「その仕事が全部終わった後、ひとりで自分が配達した家を確認しているのを、他の指導員がたまにま見かけたそうです。その話を聞いて、本当に感心しました」と村上さん。そう話す村上さん

も影の努力を続けていました。村上さん自身、メール便配達に関してはまったくゼロからのスタート。指導員として教えていくために、

仕事が終わった後、配達エリアの下見をし、地図への書き込みなどを行っていたのです。

こんな2人の熱意を力強くサポートしていたのが、美幌宅急便センターの米倉進センター長でした。

最初は毎日のように配達に付き添って指導し、その後も2、3か月間は週に一度は同行。今も週に一度は顔を出します。それだけで

(写真上) 配達途中、目についた空き缶やゴミを拾っていきます。

(写真左下) 朝、ヤマト運輸のドライバーさんから、配達を担当するメール便を受け取ります。

(写真右下) 「障がい者のメール便配達はヤマトにとってもメリットがあります。積極的に情報提供して広げていきたい」と、左から加藤房男事務長、高橋文夫メール便責任者、米倉進センター長、吉田勉エリア支店長、岡友樹釧路メール便エリア支店長。

なく、スタート時からヤマトの制服を着て配達ができるよう、事前に制服の手配もしました。

「ドライバーには、パートナーなんだということを徹底して指導しています」(米倉センター長)

ヤマトの制服を着ることに大きな喜びと誇りを感じるメイトさんたち。彼らの意欲を支える環境づくりが、成功の鍵なのでしょう。

「米倉センター長には本当に親身になって教えていただきました。センターの皆さんは快く対応してくださり、ドライバーさんもすれ違った時には手を挙げて挨拶してくださる。いつも温かく見守ってくださっているのを感じます」と村上さんは言います。

3月からは原さんもメール便配達に参加。気づいたことはこまめにメモをとりながら、一生懸命配達を覚えしました。中田さんも先輩として積極的に教えてあげたり、先に配達を終わると原さんの分を手伝ってあげたりと、よき先輩ぶりを発揮。5月には原さんもひとりで配達できるようになりました。

担当するメール便は平均で40、50冊。世帯数は約300世帯。配達エリアが増えたこともあって、今は2人でエリアを分担して配達を行っています。

「仕事を覚える早さも一般のメイトさんと変わりません。それ以上に一生懸命に、休まず配達してくれるので、安心して任せられます」(米倉センター長)

これまでに配達を休んだのは、吹雪で視界がほとんどなかった日、1日だけです。

地域の理解を深めた 配達エリアへの挨拶文

本人の意欲と周囲からのサポートがある仕事には、創意工夫が生まれます。ゴミ拾いのアイデアもそのひとつでした。

また、えくぼ福祉会と美幌宅急便センターの連名で、配達エリアの全世帯に挨拶文を書いたチラシを投函。地域の方々にえくぼ福祉会とヤマト運輸の取り組みを知っていただくためでした。

「それからは『お疲れさま』『ありがとう』と言っていた声が増えました。効果はすごく大きかったと思います」(村上さん)

おかげで誤配など万のトラブル処理も、とてもやりやすくなりました。配達作業のマニュアルも、ヤマトのマニュアルを参考に、少しずつ気づいたことを書き加えていき、独自のものをつくりました。

「メール便の仕事をずっと続けていきたい」(原さん)

「将来はヤマトの契約社員になりたい」(中田さん)

と夢を語る2人。彼らの言葉に耳を傾けながら、斉藤義浩施設長がこう言いました。

「ヤマトさんが私たちの将来のことまで考えてくださっているのが本当に嬉しいです。」



今、施設にはメール便配達を希望している方が他にも何人かいますので、すべての方を受け入れられるように取り組んでいきたい」

クロネコメール便配達事業を始めてからたった半年で軌道に乗せた、美幌えくぼ福祉会。その可能性は大きく広がっています。



新潟日報
2008年5月17日

5月
17日

26店目の
スワンカフェ&ベーカリーがオープン

新潟に初登場のスワンです



お客様がレジで並び盛況に、スタッフは嬉しい悲鳴



中央区のパン店

障害者の就労環境の厳しさが指摘される中、障害者を積極的に雇用するパン屋が17日、新潟市中央区神道寺1にオープンする。開店時は5人の知的、精神障害者がパン焼きや接客に当たる。同店では「最低賃金以上を支払う働く場」として、将来は10人ぐらい雇いたい」としている。

障害者を積極雇用

きょうオープン まずは5人

開店を控え、障害者と健常者が一緒になってパン作りの研修に励んでいた15日、新潟市中央区神道寺1のスワンカフェ&ベーカリー新潟店

このパン屋は「スワンカフェ&ベーカリー新潟店」。同市の消防設備工事会社「関越共進」が運営する。故小倉昌男・ヤマト運輸元会長が、障害者の収入増と自立を目指して設立した福祉財団などが展開するベーカリーチェーンに加盟。県内初出店となる。

開店のきっかけは広上健二郎社長（西へが三年前、授産施設で働く障害者の工賃が低いことを知り、県によると二〇〇六年度の県内授産施設の平均工賃は月一万四百四十一円。広上社長は「障害者の中でも特に知的、精神障害者は働く場所が少ない」と語る。

同市が〇五年十二月、障害者手帳を持つ市民を対象にしたアンケートでは、年収百二十万円未満の人の割合が知的障害者で55.6%、精神障害者で55.6%、精神障害者

健二郎社長（西へが三年前、授産施設で働く障害者の工賃が低いことを知り、県によると二〇〇六年度の県内授産施設の平均工賃は月一万四百四十一円。広上社長は「障害者の中でも特に知的、精神障害者は働く場所が少ない」と語る。

同市が〇五年十二月、障害者手帳を持つ市民を対象にしたアンケートでは、年収百二十万円未満の人の割合が知的障害者で55.6%、精神障害者で55.6%、精神障害者



開店でにぎわう行列の横を徐行する集配車

待ちに待ったオープンに、メンバーも晴れやかな笑顔



スワンカフェ & ベーカリー新潟 店舗 DATA

新潟市中央区神道寺 1-1-18
ファーストクラス神道寺 1F
電話番号 / 025-248-7777
営業時間 / 7:00 ~ 22:00
休日 / 年末年始のみ休業
アクセス / 新潟駅南口から車で5分
北越高校通り、サークルK向かい

障害者は五人。時給は県内最低賃金六百五十七円以上を支払い、障害者の自立促進と経営の両立を目指す。パン焼きのほか、店内では食事も提供しており、接客など一人の特性に合った仕事を任せる。また本人の体調に配慮し、休日を適宜入れるなど柔軟なシフトを組む考えだ。

今春、県立高等養護学校を卒業したばかりの同



有富慶二 新理事長

新理事長に有富慶二 (ヤマトホールディングス株式 会社取締役会長)が就任

7月8日開催された当財団の平成20年度第2回評議員会、第3回理事会で、山崎 篤理事長の後任として有富慶二(ヤマトホールディングス株式会社取締役会長)が選出され就任しました。

Y W F TOPICS

アジア、障がい者支援の 現場からスワンへ

中国、ベトナム、フィジーなどアジア太平洋地域6カ国で障がい者雇用や就労支援に携わるリーダーが7月3日、スワンカフェ & ベーカーリー赤坂店を訪れました。JICAの7週間におよぶ研修で、日本の就労支援や職業リハビリテーションの知識・技術を学んでいます。

「障がいのある人は、時として健常者より高い能力を持っている」という海津社長の言葉に反応するリーダー達。政府の助成金もなく、雇用施策も整備されていないなど、多くの問題を抱えるみなさんは「国に戻ったらスワンの例を施設の事業主に広めていきたい」と意欲的に話していました。



スワンのメンバーと一緒に記念写真

平成20年度障がい者福祉助成金の 助成先が決定

助成金選考委員会が6月20日に開催され、選考の結果、障がいのある大学生への奨学金は、新たに8名が決定。また全国の福祉施設・団体より、1,046件の応募があり、88件の助成先が決定しました。詳しくは財団ホームページをご覧ください。
<http://www.yamato-fukushi.jp/>

お客様から、おほめの言葉を いただきました

『ヤマトファン賞』を受賞



表彰状を胸に酒井保夫さん(左)、「酒井さんの受賞は、私も誇りに思います」と宇佐美和宏SV

今年4月に、福祉施設ドリームヴィ(東京都北区)のクロネコメイト、酒井保夫さんが『ヤマトファン賞』を受賞しました。理由は、ポストに投函できないメール便をセンターに戻さず、お客様に直接手渡し予定通りに配達したこと、雨で封筒が濡れないようビニール袋に入れてお届けしたこと、——酒井さんの誠実で丁寧な仕事ぶりに感心したお客様からヤマト運輸本社におほめの言葉が届きました。少し恥ずかしそうに「普通通りにやっているだけ」と酒井さん。

宇佐美和宏SV(北東京主管支店・北メール便エリア)も、「酒井さんは、お願いや注意事項をメモにして、いつでもできるように普段から心がけているんですよ。彼の仕事に対する姿勢を、お客様もわかってくださったんですね」と、まるで自分のことのように喜んでいます。

ヤマトファン賞 お客様からよせられたお褒めの事例の中から、とくにヤマト運輸のファンを増やしたと認められる社員に贈る賞

没後40年 レオナルド・フジタ展



花の洗礼 1959年 パリ市立近代美術館蔵

開催期間 ▶ 2008年7月12日(土)～9月4日(木)
休館日 ▶ 毎週月曜日(7月21日を除く)、7月22日(火)
開催場所 ▶ 北海道立近代美術館
●地下鉄/東西線・西18丁目駅下車、4番出口から徒歩5分
●JRバス・中央バス・さっぽろ散策バス/北海道立近代美術館前・バス停下車、徒歩1分
開館時間 ▶ 午前9時30分～午後5時00分 ※金曜は午後7時30分まで
(入館は閉館の30分前まで)

入館料 ▶

	一般	高・大学生	小中学生
当日	1,200円	700円	500円

○障がい者手帳をご提示の方とその介護者1名は無料になります

問い合わせ先 ▶

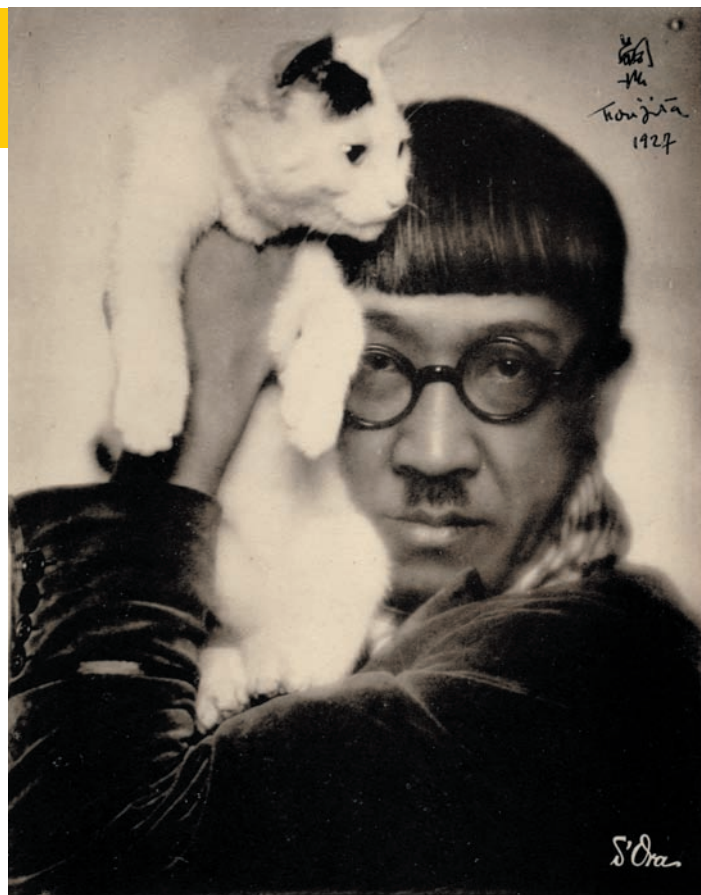
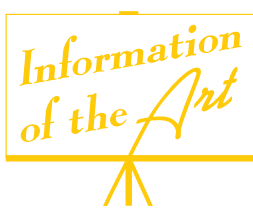
■北海道立近代美術館テレフォンサービス 011-612-7000
■同美術館ホームページ <http://www.aurora-net.or.jp/art/dokinbi>
■レオナルド・フジタ展公式ホームページ <http://www.leonardfoujita.jp>

主催 ▶ 北海道立近代美術館、北海道新聞社、NHK札幌放送局

巡回情報 ▶

宇都宮美術館
2008年9月14日(日)～11月9日(日)
上野の森美術館
2008年11月15日(土)～2009年1月18日(日)
福岡市美術館
2009年2月22日(日)～4月19日(日)
せんだいメディアテーク
2009年4月26日(日)～6月7日(日)

©Kimiyo Foujita & SPDA, Tokyo, 2008



藤田嗣治(レオナルド・フジタ、1886～1968)は東京美術学校を卒業後パリに渡り、エコール・ド・パリの代表的な画家として才能を開花させたことで知られます。とりわけ「素晴らしき乳白色の地」による裸婦像は、その名を世界に知らしめた作品です。中南米旅行や日本での活動の後、戦後は再び渡仏。フランス国籍の取得とキリスト教への改宗を経て、81歳で亡くなるまでフランスで創作活動を展開しました。本展では、初期の作品群をプロローグとして、1992年に再発見されこの度大がかりな修復が完了した幻の大作《構図》《争闘》(シリーズ日本初公開)と関連するデッサンを紹介し、画家の優れた群像表現を検証します。また晩年のアトリエでの生活や、チャペル建立に昇華されることとなった独自の宗教観にも焦点をあて、その画業をふりかえります。

このレオナルド・フジタ展の美術品取り扱いをヤマトロジスティクス株式会社が協力しています。

ヤマト福祉財団全国支部連絡先 (ヤマト運輸(株)内)

支部	事務長	連絡先
北海道支部	加藤房男	TEL.011-891-5040
東北支部	平井 忠	TEL.022-374-8065
東京支部	名古屋健史	TEL.03-5564-3705
関東支部	森田雅哉	TEL.045-508-6106
北信越支部	青木浩昭	TEL.025-231-9512
中部支部	矢野静香	TEL.052-725-3633
関西支部	石田久雄	TEL.06-6682-8570
中国支部	竹下憲雄	TEL.082-849-1451
四国支部	内山 修	TEL.0877-46-7875
九州支部	目野和彦	TEL.092-931-3340
沖縄支部	古謝盛裕	TEL.098-840-3605

賛助会員 個人52,154人 法人ヤマトグループ37社(2008年3月31日現在)



財団本部
早川雅人
6月5日をもって常務理事に就任しました。よろしくお願いいたします。



財団本部
渡辺 聡
6月5日をもって事務局長に就任しました。よろしくお願いいたします。